

三重県入札等監視委員会 審議概要（平成25年度 第4回）

開催日及び場所	平成26年2月26日(水) アスト津 4階 研修室A	
出席委員	委員長 林 拙郎 副委員長 福島 礼子 委員 石黒 覚 委員 長谷部 拓哉 委員5名中4名出席	
審議対象期間	平成25年10月1日から平成25年12月31日	
抽出案件	総件数 5件	(備考)
一般競争入札	3件	
指名競争入札	2件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申または勧告の内容	特になし	

意見・質問	回答
入札・契約事案の審議について	
工事名 中勢用水地区国営造成施設県管理事業安濃ダム洪水放流設備空気弁取替工事〔津農林水産事務所〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・当該工事ができる業者は県内に何社あるのか。 ・1回目は参加者なしで入札中止になっているが、落札業者は1回目の参加要件を満たしていない業者であるのか。 ・当初設置した業者は参加要件を満たしていなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内にはない。 ・2回目の参加要件しか満たしていない業者である。 ・満たしているが参加がなかった。
工事名 二級水系井戸川水系井戸川砂防災害関連(護岸工)工事その9〔熊野建設事務所〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・談合情報の事情聴取における質問内容は決まっているのか。 ・落札率が94.8%であるが、同様の工事の落札率と比較するとどうなのか。 ・関連工事の中で他に談合情報があったものはないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・談合対応マニュアルを参考にして聞き取りしている。 ・ここ1、2年の熊野建設事務所における平均的な落札率は概ねこれぐらいの率である。 ・ない。
工事名 桑名市五反田事案恒久対策(分一3)工事〔廃棄物適正処理PT〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・技術力要件の評価はどのように行ったのか。 ・大手企業が参加しているので技術力という点ではあまり差がつかないと思うが、評価でどういう差がついているのか。 ・総合評価の結果は全ての企業体に明らかにしているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置技術者等のヒアリングに基づき、評価のために設置した技術審査会で採点している。 ・技術力の高い部分での提案になるが、施工体制など各企業によって特徴があるのでそういった点で差がついた。 ・している。
工事名 三重県地区漁港施設機能強化事業安乗漁港他耐震・耐津波診断設計業務委託〔伊勢農林水産事務所〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・5漁港の調査を半年の工期で行っているが、分割して発注することは難しいのか。 ・入札参加にあたり、各企業はかなり時間をとって準備するものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象漁港が志摩市から大紀町までの熊野灘沿岸に位置することから、津波シミュレーションの合理化と整合性を図ることから1件で発注している。 ・総合評価方式で資料提出も求めており、現地を把握して提案を作成するためかなり時間を要すると思われる。
工事名 北勢沿岸流域下水道(北部処理区)水量観測設備(東員南部1号・2号)詳細設計業務委託〔北勢流域下水道事務所〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・入札金額が同額であるのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格を事前公表しているためである。

意見・質問	回答
繰越事案の審議について	
工事名 ①二級水系志原川水系大川砂防災害関連(護岸工)工事その2〔施設災害対策課〕	
・請負業者が倒産したということであるが、経営状況は分からなかったのか。	・実際の経営状況は私どもでは把握できない。
工事名 ②二級河川志原川河川災害関連(人工リーフ)工事(その1)〔施設災害対策課〕 ③阿田和地区海岸平成23年海岸災害復旧工事(国災第198号 海洋2)〔施設災害対策課〕	
・理由が異常気象なのでやむを得ないと思う。	
工事名 ④二級河川井戸川河川災害助成(橋梁下部工)工事その8〔施設災害対策課〕	
・昨年度、事故繰越理由として人材不足とか資材の高騰があったが、今回は無かったのか。	・今年についても人材不足とか資材が高騰しているという話はあるが、それが直接の原因で、事故繰越に至っているものは無い。
工事名 ⑤主要地方道七色峡線(上流域)道路災害関連工事その6(5工区)〔施設災害対策課〕	
・空石積に空隙がたくさんあるということだが、空隙には石をつめるのか。 ・着工前は随分、木が生えていたのですね。	・金網を張り、コンクリートを吹き付けることにより一体化させている。 ・はい。
工事名 ⑥二級水系井戸川水系井戸川砂防災害関連(護岸工)工事その6〔施設災害対策課〕 ⑦二級水系井戸川水系井戸川砂防災害関連(護岸工)工事その7〔施設災害対策課〕 ⑧二級水系井戸川水系井戸川砂防災害関連(護岸工)工事その8〔施設災害対策課〕	
・災害関連以外でも転石で遅れることはあるのか。 ・もし非常に急ぐ工事であれば、機械を2台にして行うとかできなかったのか。 ・入札監視業務②の二級水系井戸川砂防災害関連工事その9について、同じ場所か。 ・そうすると、同じように事故繰越になる可能性があるのではないか。 ・転石は出ているのか。	・ある。災害に限ったことではない。 ・非常に狭い場所で工事を行っており、3台、4台でもというわけにはいかない。精一杯のところですよ。 同じ位置である。 ・今回の事故繰越は24年度予算に関するものである。この現場については、25年度予算で行っていることから事故繰越案件とはならない。 ・同じような状態である。

意見・質問	回答
工事名 ⑨一般県道小船紀宝線他平成23年道路災害復旧工事(国災第957・958号他)〔施設災害対策課〕	
<p>・いずれも自然災害で条件も悪く、やむを得ないと思うが、事故繰越は去年もたくさんあったが、最近、特に増えてきているのか傾向はどうか。</p>	<p>・昨年度も熊野地域の災害である。平成23年の紀伊半島大水害により、災害が多く発生したことが主な要因であり、それ以前においては今回のように多くの案件が出ている状況は無い。来年度も少し残るが、平成27年度以降は熊野の災害という案件が無くなれば数は少なくなる。</p>
その他	
<p>・次回、平成26年度第1回入札等監視委員会の開催日は、平成26年5月30日(金)の予定とする。</p>	